

2021年度学習支援ボランティアに関する活動報告 盛岡市立上田小学校及び仁王小学校の実践

仁昌寺 真一*, 本山 敬祐*

(令和4年2月1日受理)

1 学習支援ボランティア活動の目的(趣旨)

地域の学校への学生派遣を通し、学校教育の実際、教職員の指導や学級経営、子どもの想い、保護者や地域の方々の想いを知り、教員へのあこがれをもつことができるようにするとともに、課題意識を具体的にもって教育実習や教員採用試験に臨む気構えや資質能力を身に付けることができるようにする。

2 学習支援ボランティア活動の実施構想

【資料①「学生の学校派遣実施計画」】参照

3 学習支援ボランティア活動実践の経過

(1) 上田小学校・仁王小学校への依頼・共通理解(令和3年4月20日)

上田小学校、仁王小学校へ出向き、それぞれの校長へ学習支援ボランティア活動の受入れを依頼し、了解を得た。【資料①「学生の学校派遣実施計画」資料②「学習支援ボランティア活動年間スケジュール」】をもとに、活動の目的や進め方、年間スケジュール等を共通理解した。

昨年度同様、上田小学校・仁王小学校の2校で、6月ごろから開始する予定とした。

(2) 学習支援ボランティアの募集

(令和3年4月26日～5月7日)

【資料③「学習支援ボランティア募集」】のちらしを作成し、学生に広報し、ボランティア登録の意志を募った。広報活動として行った方法は下記

の通りである。

○拡大募集ちらしの掲示(教育学部1号館・2号館玄関)

○他の学習支援ボランティア活動との合同説明会(ボランティア登録意志がある学生への募集ちらしの配付・説明⇒3日間で約70名参加)

今年度は、下記の点について留意し募集することとした。

①仁王小学校、上田小学校、両校希望の3つを選択肢とする。

②1年生から4年生まで学年を固定せず、オープンにして募集する。教育学部に入った学生に対し、できるだけ早く学校現場の雰囲気を感じてもらう場を保障したいと考えた。

③QRコードから入力フォームにアクセスし、容易に申込みができるようにした。

④教育学部ホームページへ募集ちらしを掲載し、いつでもどこでも目にするようにした。

(3) 学習支援ボランティア登録者の把握

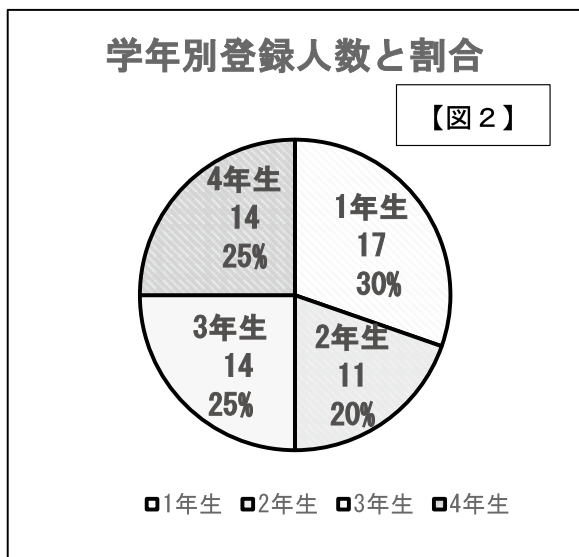
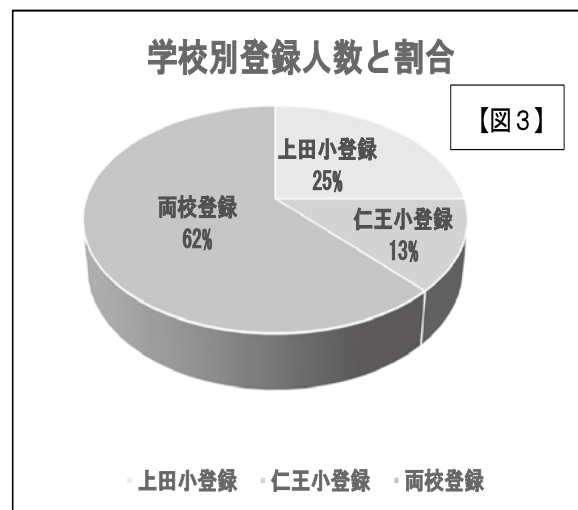
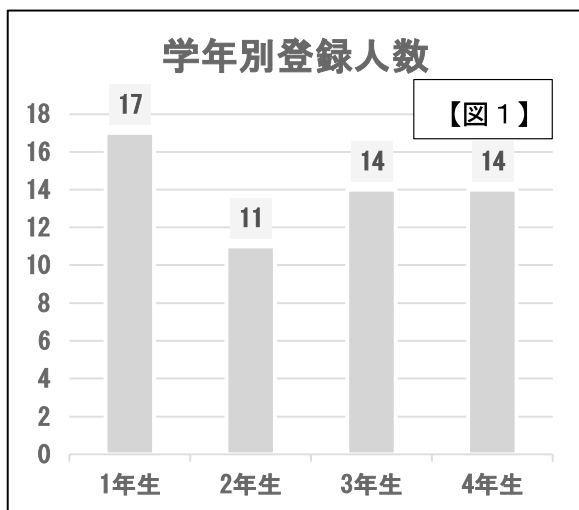
(令和3年5月10日～21日)

募集の結果、学習支援ボランティアの登録数と特徴は下記のとおりであった。

*岩手大学教育学部附属教育実践・学校安全学研究開発センター

(表1) 学校別・学年別学習支援ボランティア登録者数

	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
上田小学校	8名	2名	1名	3名	14名
仁王小学校	1名	3名	3名	0名	7名
両校	8名	6名	10名	11名	35名
合計	17名	11名	14名	14名	56名



【図1・2】より、1年生の登録数が最も多いことが分かる。また、学年の偏りがほぼなく、どの学年からも学習支援ボランティアの希望者が出た。このことから、学年を固定せず、全学年から学習支援ボランティア登録者を募集したことは妥当であったと考える。

【図3】より、大学に最も近い上田小学校を希望する学生が多く、両校希望の学生を含め、全体の87%を占めていることが分かる。両校希望者が圧倒的に多いことから、学習支援ボランティア体験に対するニーズの高さを感じた。

(4) 保険加入の手続き (令和3年5月25日)

ボランティア活動中の事故に備え、登録した学生全員、保険に加入した。加入手続きは、盛岡市社会福祉事務所(総合福祉会館内)で行った。一人当たり300円(盛岡市内在住者は200円補助)。経費は本センター予算の中から支出した。

(5) 学習支援ボランティア活動事前説明会の開催 (令和3年5月26日 事前指導内容オンデマンド配信)

【資料④】学習支援ボランティア活動実施要項を活用し、オンデマンド配信による事前説明会を開催した。当初は、対面による事前説明会を考え

ていたが、新型コロナウイルス感染症への警戒段階別対応方針（BCP）がレベル2になったことに伴い、事前説明会の様式を急遽オンデマンド配信に変更して実施した（5月24日に事前指導内容を録画）。

事前指導内容は、YouTubeにアップ配信し、学生が自分の都合に合わせて視聴できるように配慮した。事前説明会で確認したことは下記のとおり。

- ・学習支援ボランティア活動に望む態度
- ・学習支援ボランティア活動の進め方
- ・学習支援ボランティア活動当日の具体的な動き
- ・活動を行う際の留意事項

⑤】の配付と書き方

特に、コロナ禍での学習支援ボランティア活動となるため、毎朝検温し記録することやボランティア活動直近一週間以内に一度でも体温が37.5度以上あったときには、予定の学習支援ボランティア活動は辞退することについて確認した。

（6）各小学校訪問（令和3年5月27日）

【資料⑥ 校長宛文書】や登録者名簿を持参し、受入れ校である上田小学校、仁王小学校を訪問し、学習支援ボランティア活動を実施するにあたり、実施の目的や流れ等を再確認した。なお、新型コロナウイルス感染症への警戒段階別対応方針（BCP）が、現時点レベル2であることを伝え、課外活動解禁と同時に学習支援ボランティア活動を開始することを確認した。

（7）学習支援ボランティア活動の実施（令和3年6月1日～3月）

①実施した学習支援ボランティア活動

（詳細はアンケート結果参照）

- 朝学習計算タイム個別支援・丸付け・アドバイス書き
- 算数科や家庭科の授業補助（算数の個別支援、ミシン縫いやアイロン掛けの個別支援等）
- 遠足引率補助（動物公園への遠足引率補助）

- 放課後学習支援（丸付け・個別支援 等）
- スケート教室指導補助（スケート靴の紐結び・滑走補助等）

②活動の留意点や配慮事項

- 新型コロナウイルス感染拡大防止策をしっかりと講じる。（毎日の検温・来校時の検温：非接触型検温器の購入、貸与 マスクの着用等）
- 学習支援ボランティア活動に参加した学生の声を、適宜、登録者全員に伝え、活動の促進を図る（学習支援ボランティア活動実施報告書の記載内容等から）。

（8）アンケートの実施

（令和3年6月2日・12月20日・1月11日）

①登録学生への事前アンケート（6月2日）

学習支援ボランティア活動をより充実したものにするために、現時点での登録学生の意識等の調査を行った。活動終了時の事後アンケートと比較することで、活動の有効性や成果、課題等を登録学生の変容等から捉えることを目的に実施した。

②受入れ小学校、地域コーディネーターへのアンケート（12月20日）

③登録学生へのアンケート（1月11日）

《アンケートの結果から》

①受入れ小学校《2校》

ア 学生に依頼した活動内容

- 朝の計算タイム（個別指導・プリントの丸付けとアドバイス書き…5,6年）
- 動物公園への学習遠足の同行支援（安全見守り・グループ学習支援…1年）
- 算数科授業における個別指導…4年
- 家庭科におけるミシンやアイロン掛け実技補助…5年
- 「放課後学習会」で、各学年から出されている家庭学習（家庭で取り組む前の課題や宿題）の丸付けや補助指導または指導補助（アドバイスや助言）

イ 学生による学習支援ボランティア活動を実施

してみたの成果

- 子どもたちが問題を解いた大量のプリントの丸付けや考え方に関わる個別指導（直接指導とプリントへの間接指導）により、即日、子どもたちに返却することができた。子ども一人一人の学力向上に寄与した。
- 家庭科におけるミシンやアイロン掛けの個別指導により、子ども一人一人の活動がはかどり、技能向上に寄与した。また、安全に活動することができた。
- 校外学習の同行支援により、安全な学習が確保できた。また、行動が遅れがちな子どもの支援により、子どもが楽しく学習に参加することができた。
- 回を重ねるごとに学生に親しみをもち、自分から進んで質問する子どもも見られた。
- 家庭学習の取組に困難な状況（自力で取り組めない状況）が見られる子どもについては、友達とともに活動することで、所属感を抱きながら安心して学習することができる環境となった。
- 学習支援ボランティア（岩大学生）の方々に見守られながら励まされたり、褒められたりすることで、できる喜びを実感し、学習意欲を高める一助となった。
- 学習支援ボランティア（岩大学生）について、時間帯を調整して報告いただいたことで、見通しをもって運営にあたることができた。

ウ 学生による学習支援ボランティア活動を実施してみたの課題・改善点

- 学期ごとに計画していることをメール配信したが、参加者が少なかった。活動の内容や時期が一人一人の学生と合致しないこともあると思うが、より多くの学生に参加してほしい。
- 市内陸上記録会や球技大会等、次年度に開催される時には、学生に支援していただくことを考えている。
- 学習支援ボランティア（岩大生）の参加人数が減少し、子どもの参加人数に合わせた補充体制を整えることができなかった。

エ 子どもたちの声

- 「来るのが楽しみだ。」
- 「教えてもらえるのがうれしい。」
- 「できなかったものができるようになった。」
- 「分からなかったものが分かるようになった。」

オ 学習支援ボランティア活動に対する意見や要望

- 近隣の小学校として、これからも岩手大学と交流の機会を多く持っていきたいと考えています。よろしく願いいたします。
- 学校、地域、大学と三者で連携することは必要不可欠であるが、主に中心となって働きかけるのは、どの立場であるかを共に検討していきたい。
- コロナの感染拡大が緩和され、通常の教育活動が展開できるようになったら、体験学習や見学学習への学習支援もお願いしたい。

② 地域コーディネーター

ア 学習支援ボランティア活動に対する地域コーディネーターとしての対応内容

- 補完体制として入っていただく学年、学級の選定

イ 上記1の対応をしてみたの成果

- 学習支援ボランティア（保護者、地域住民、岩大学生）の方々に見守られながら励まされたり褒められたりすることで、できる喜びを実感し、学習意欲を高める一助となった。（子どものこと）
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学生ボランティアの参加を制限されている時に、地域住民の方を登用し、補完体制を整え、運営することができた。
- 教職に就かれる学生の希望ある思いや喜びを感じながら、学習支援ボランティアと一緒に取り組むことで、地域コーディネーターや地域のボランティアの方々の生きがいづくりとなり、一体となって子どもを育成しようとする思いを共有することができた。

ウ 学生による学習支援ボランティア活動に対し、上記1の対応をしてみたの課題・改善点

○子どもたちの参加人数に対して、ボランティアの支援人数が足りない状況であった。コロナ禍でも落ち着きが見られ活動ができそうな機会を逃すことなく、いつでも始動できるよう連絡体制を整えておきたい。

エ 学習支援ボランティア活動に対する意見や要望

○学校、保護者、地域の連絡体制の更なる充実
(仁昌寺)

③ 登録学生に対するアンケート結果

今年度は岩手県においても新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言が出されたことから、活動機会が昨年度以上に制約された。そのため、今年度は56名の登録学生のうち1回以上学習支援ボランティア活動に参加した者は9名に限られた。この9名を対象に事業評価アンケートを実施し、そのうち6名から回答を得た(1年生1名、2年生1名、3年生1名、4年生3名。いずれも4回以上活動に参加している)。以下では主な項目に沿ってアンケート結果の概要を記述する。

ア 参加目的と達成度

学習支援ボランティアに登録した目的(複数回答可)として、6名とも「子どもと関わる機会を少しでも増やしたい」点が共通している。そのうえで、3年生以上の回答者は「実習を通じて得た気づきをボランティア活動を通して深めたい」ことが登録目的に含まれており、本事業が教員養成課程における教育課程と関連付けて教育実践について体験的に学ぶ機会となっている。

今年度の学習支援ボランティアの参加によって当初の目的が達成できたかを問うたところ、「達成できた」と「やや達成できた」が半数ずつであった。「達成できた」と回答した理由として「より多くの子どもたちと接することで、さらなる子ども理解の在り方を学べたから」(4年生)、「2校

の学習支援に参加してより多くの子どもたちと接することができたため、子どもたちの多様性を感じ、一人一人の実態に合わせた指導が必要であることに改めて気づくことができたから」(4年生)という記述が寄せられた。

「やや達成できた」という理由には「後期は大学の授業があり、朝の計算タイムのボランティアに一度も参加できなかったから」(4年生)というように、履修上の制約から参加機会が得られなかったことが理由としてあげられている。また、「実習での気づきをボランティアを通じて深めることはできたが、もっと知っていききたいことがたくさんあったから」(3年生)というように、新たな課題を発見したことにより控えめな回答となったと推察されるものもあった。

イ ボランティア活動を通じて学んだこと

限られた活動機会の中で学生が学んだことは以下の通りである。主に朝や放課後にプリント等の丸つけという個別の支援を通じて、個別支援の重要性や、正解を示す以外に子どもの学びを促す働きかけについて学んだ様子がうかがえる。

朝学習で算数プリントに取り組む児童に対し、答えを教えるのではなく、考え方のヒントを与えたり、児童自身が間違いに気付くことができるような声掛けをすることが大切であると学んだ。どこに悩みがあるのか、躓きがあるのかを普段の取り組みの様子から見とっていくことも必要であり、その児童に応じて支援していくことが教師に求められると感じた。(4年生)

上田小学校のプリントの丸付けでは、フィールドバックのコメントを考えながら取り組んだり、答えではないヒント(子どもたち自身がもう一度考えることにトライできるようなアドバイス)を書き込んだりすることを通して、プリントの丸付けもただの作業ではなく子どもたちとの学びの時間を作る大切な活動

であることを学んだ。仁王小学校では、1回のボランティア活動中に前半は低学年、後半は高学年というように指導対象の学年を複数設けていただいたため、子どもたちの発達段階に応じた声かけの違いに気をつけることが大切であることを学んだ。(4年生)

子どもたちとの向き合い方を学びました。とくに、子どもの特性は一人一人違うため、理解度や状況など、一人一人の実態に応じて、丁寧に向き合うことが何よりも大切だということ。(4年生)

時間割に空きができ、昨年度より参加できたことで、子どもたちと継続して関わることができました。子どもたちと関わる時間は一回のボランティアで15分ほどでしたが、学習になかなか入っていけない子への担任の先生の声の掛け方や、自分が支援に入った時の教え方への課題など、様々なことに触れ、気づくことがたくさんありました。(3年生)

ウ 教職の適性に関する認識の変化

事業評価アンケートでは、今年度の学習支援ボランティアに参加する前と比べて、教員への適性に関する認識の変化をたずねた。回答は「適性があると思えるようになった」、「どちらかといえば適性があると思えるようになった」、「わからない」がそれぞれ2名ずつという結果になった。

「適性があると思えるようになった」と回答した2名はいずれも4年生である。うち一名は「声をかけるタイミングか子どもたちの集中場面を見守るほうが良いのかを判断して、適切なタイミングで子どもたちに声をかけていけるようになったから」というように、指導や声かけに手ごたえを感じられたことが理由としてあげられている。もう一名は「活動を積み重ねるたびに、教師の目線に立ち、子どもに寄り添うとはどのようなことを考えていきたい、という思いが強くなったからです」というように、活動の参加回数を重ねてい

くことで「子どもに寄り添うとはどういうことなのかを考えていきたい」という探究課題を発見し、教職に就く意思をより確かにしたことで教職への適性を実感していた。

また、「どちらかといえば適性があると思えるようになった」という回答の理由として、「学習で躓いている児童に声を掛け、わかった!と鉛筆を走らせる様子を見て、自分の支援によって少しは児童の助けになったかなと思えたから」(4年生)という回答では、関わった子どもの変化を目の当たりにすることが教職適性の認識につながったと推察される。

一方で、教員の適性に関して「わからない」という回答が一定数確認された。その理由として、1年生の学生は「自分では問題の意味や解き方が分かっている、それを小学生に分かりやすい言葉で説明するのは難しいことだと感じたから。小学校で習う勉強の指導法をしっかり身につけなければならないと実感した」と述べられている。1年次で教員への適正について「わからない」という認識をもっているとしても、このような気づきが今後の教育課程における学びの意欲が高まりへとつながることが期待される。具体的な課題意識をもった学びを通じて身につけた知識や技能を通じて子どもの指導・支援に対する手応えを感じ、結果として適性を認識できる可能性があるものと解釈できる。

しかしながら、「子どもと関わることは好きだし、勉強をすることも好きだけど、多様な子どもたちと触れて、自分が一人一人にあった声かけ、教え方、学級経営などができるかと言われたらやってみないとわからないなと思ったから。意欲はあるが、適正に関しては未知数である」という回答も寄せられた。この回答からは、子どもに対する愛情や教職への意欲をもちつつも、座学とは異なり多様な子どもと触れる学習支援ボランティアへの参加を契機として、教員になるうえでの適正について自己を見つめ直していると考えられる。

エ 教職への希望に関する認識の変化

教職の適性と同様に、本アンケートでは学習支援ボランティア活動への参加を通じた教職への希望に関する認識の変化をたずねた。教員採用選考に合格している学生が教員になりたいという思いをより強くしたという回答を含めて、6名とも教員への希望が高まったと回答した。それぞれの理由を自由記述でたずねた結果、とりわけ1年生から「廊下で元気に挨拶してくれたり、折り紙で折った作品を子どもたちからもらったりした時に、子どもと触れ合うことができるのは、やはり教師の魅力だと感じたから」という回答が寄せられた。本格的な教育実習以前から教職の魅力を体感できる機会が、今後の学びの支えとなると期待される。

一方で、「どちらかといえば教員になりたいと思えるようになった」という回答の理由として、「教員を目指している。しかし、上述の教員への適性について「わからない」と回答した上述の学生は、「ボランティアを通して、自分にできるか少しだけ不安を感じたから」と記述している。意欲と目的意識をもって本事業に参加した学生が学習支援ボランティアへの参加を機に不安を感じたというのは、目標と現状の差を認識し、より自信をもって教職に就くために必要な過程であるとも考えられる。しかしながら、このような不安を自信に変えるためには、大学あるいはボランティアを受け入れる学校において個別のリフレクションや他の参加学生との振り返り等の意図的なケアが求められると考える。

エ 次年度に向けた改善点

次年度に向けた改善点として次のような指摘があった。

上田小学校の学習ボランティアでは、様々な経験をさせていただき感謝しています。その際、時間を越してボランティアを行うことがほとんどだったため、活動の内容や実施時間を事前に教えていただけるとありがたかったです。

このような指摘を踏まえて次年度の改善策を検討する。

(本山)

4 学習支援ボランティア活動実践のまとめ

(1) 成果

- 地域の学校への学生派遣を通し、体験的に学校教育の実際、教職員の指導や学級経営、子どもの思い保護者や地域の方々の思い等を理解する一助となり、教師へのあこがれをもつことにつながった。
- 課題意識を具体的にもって教育実習や教員採用試験に臨む気構えを促進することにつながった。
- 教員採用試験に合格した4年生の学生にとっては、4月からの教員生活に向けて、担任の動きをより意識した学習支援活動になったと思われる。
- 小学生の充実した学習活動につながり、学力向上、自己実現の一助となった。地域と共に子どもを育てる協働による教育を推進することができた。



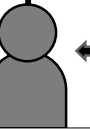

【資料⑦ 学習支援ボランティア活動実施状況(学習支援ボランティア活動実施報告書参照)】

(2) 課題

- より多くの学習支援ボランティア活動により、取組における有効性の検証を行っていく必要がある。コロナ禍における学習支援ボランティア活動の在り方について小学校とも対話を通して方向性を探っていきたい。
- 学習支援ボランティア活動に参加する学生がやや固定化の傾向にあった。参加した学生の感想を登録者全体に知らせたり、参加でき兼ねている要因を早めにキャッチしたりして、より多くの学生が学習支援ボランティア活動に参加できるように手立てを講じていきたい。

(仁昌寺)


令和3年度 学生の学校派遣実施計画 【上田小・仁王小学習支援ボランティア活動】【資料①】

	岩手大学教育学部	小学校
1 目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の学校への学生派遣を通し、学校教育の実際、教職員の指導や経営、子どもの想い、保護者や地域の方々の想いを知り、教員へのあこがれをもつことができるようにするとともに、課題意識を具体的にをもって教育実習や教員採用試験に臨む気構えや資質能力を身に付けることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域と共に子どもを育てる。【連携・協働の視点】 ○ 教師が、子ども理解を基本に、子どもと向き合う時間をつくり、基礎基本定着の一助にする。【学級経営・学力向上の視点】 ○ 教師も子どもも、多様な知識や経験をもつ地域の方々や学生とふれ合うことを通して、学習活動の充実を図るとともに、地域や学生への愛着を深める。地域人材資源の積極的活用を図る。【教育振興運動・地域資源活用の視点】 ○ より多くの大人の目で子どもたちを見守ることで、よりきめ細かな教育活動につなげる。
2 連携の実際(例)	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ☆ 学生学校派遣(小学校での学生による学習支援ボランティア活動)実施についての共通理解・締結 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">大学担当教員</div> <div style="text-align: center;">↔</div> <div style="text-align: center;">  学生 </div> <div style="text-align: center;">↔</div> <div style="text-align: center;">  地域連携コーディネーター </div> <div style="text-align: center;">↔</div> <div style="text-align: center;">  小学校(校長)・担当教員 </div> <div style="text-align: center;">↔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">学年・学級</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 20px;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「地域の小学校への学習支援ボランティア活動」の趣旨と実施の仕方について学生に知らせる。(大学担当教員) ○ 学習支援ボランティア希望者を募る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 申し込み登録 ・ 事前説明会 ・ 保険加入 等 (大学担当教員) ○ 学習支援ボランティア登録者を小学校へ知らせる。(大学担当教員) ○ 学習支援ボランティアの依頼をメール等で受信する。ボランティアの可否を検討し,可能なときは学習支援活動を行う。(学生) </div> <div style="width: 10%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習支援ボランティア活動について教職員間で共通理解する。(教職員) ○ 学年(学級)担任が,学習支援ボランティアの活用について小学校担当教員に申し出る。(教職員) ○ 学習支援ボランティア登録者へメール等でボランティア活動の依頼をする。(小学校担当教員・(地域コーディネーター) </div> </div>	
3 期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の動き,学校の動きの具体的理解とやりがいの実感 ○ 子ども理解の深まり ○ 教員志望者の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ○ さまざまな学習活動,きめ細かな学習の実現⇒学力の向上 ○ 安心・安全な学習活動の実現 ○ 地域や学生への愛着
4 その他	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【学習支援ボランティア活動の内容例】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 放課後学習支援(○付けや個別指導) ○ 実技等学習支援(家庭科ミシン縫い補助 水泳・陸上等体育動きづくり補助) ○ 校外学習安全見守り支援 ○ 特別支援学級学習支援 ○ 算数学習支援 </div>	

令和3年度

学習支援ボランティア活動(上田小・仁王小への学生派遣)年間スケジュール計画

【資料②】

	活動内容	期日(予定)	具体的な活動内容	留意点等
1	○ 実施計画等作成 ・ 実施計画 ・ 年間スケジュール計画 ・ 募集案内ちらしの作成	～4月16日(金)	・ 実施計画(大学, 小学校両面の立場から学生派遣の目的, 意義や実際の動き等を紙面に位置付ける。) ・ 年間スケジュール(昨年度の動きをもとに, 期日を早める。) ・ 募集案内ちらし(目的, 対象学年, 活動内容例, 実際の動きを端的に位置付け作成する。)	・ 企画会議提示 ・ センター会議提示
2	○ 受入れ小学校訪問	4月20日(火)	・ 令和3年度の学生派遣(学生による学習支援ボランティア活動)の受入れについて, 2小学校を訪問し, 所属長に依頼する。	・ 実施計画, スケジュールの資料持参
3	○ 学習支援ボランティア募集	4月26日(月) ～5月7日(金)	・ 募集ちらしの配付・説明, 拡大ちらしの掲示, アイアシスタントへの掲載	・ QRコード, 入力フォームによる申し込み(正確なアドレス登録)
4	○ 学習支援ボランティア登録者の把握 ・ 登録者名簿の作成 ・ メールアドレス帳入力	5月10日(月) ～5月21日(金)	・ 上田小登録, 仁王小登録, 両校登録を確実に把握し, それぞれの名簿を作成	・ メールアドレスを正確に転記・把握
5	○ 保険加入の手続き ・ 盛岡市内 ・ 盛岡市外 の把握	5月25日(火)	・ 盛岡市社会福祉事務所(総合社会館内)に出向いて手続き ・ 盛岡市在住, 市外在住分けて, 社会福祉事務所の所定の用紙に記述 ・ 公印を押印(事務室に依頼)	・ 盛岡市在住は200円補助
6	○ 事前説明会の開催	5月26日(水)	・ 「学習支援ボランティア活動実施要項」を作成し, 来校態度, 活動の進め方, 注意事項, 報告書の作成等を共通理解	・ マスクの着用, 検温等, 感染防止に万全を
7	○ 受入れ小学校訪問 ・ 受入れ依頼文書 ・ その他資料添付	5月31日(月)	・ 受入れ依頼文書の他, 事前指導資料等を添付し, 直接訪問し, 依頼する。また, 具体の動き等について打合せを行う。	・ 非接触型検温器を貸与
8	○ 学習支援ボランティア活動の開始(～令和4年2月)	6月1日(火) ～2月28日(月)	・ 適時適所, 小学校を訪問し情報交換を行う。 ・ ボランティア活動後は, 「報告書」に感想等を記述し, 小学校の担当の先生に提出させる。 	・ 訪問時に, 報告書を受け取る
9	○ アンケートの実施	12月20日(月) ～24日(金)	・ 小学校用, 登録学生用, それぞれのアンケートを作成し, メール等で回答	・ 活動の機会がなかった学生にも提出を求める
10	○ 活動報告作成	～1月31日(月)	・ 活動経過, アンケートのまとめを中心にまとめる。	・ 事業の目的が達成できたか, 成果と課題を明確に
11	○ 礼状作成・送付	3月1日(火)	・ 礼状の他, まとめた活動報告を添付し, 小学校を訪問 ・ 懇談を通し, 次年度の方向性を話題に	・ 小学校側の成果と課題についても把握

盛岡市立上田小学校・仁王小学校への

【資料③】

学習支援ボランティア



体験活動の見守り支援



教科等の個別支援

募集!

1 目的

地域の小学校での学習支援ボランティア活動により、①学校教育活動 ②教職員の指導や業務 ③子どもの想い ④保護者や地域の方々の想いを知る。

2 募集対象学年

- 岩手大学教育学部の学生（1年生～4年生）

3 学習支援ボランティア活動の内容例

算数科などの学習支援（個別指導や丸付け等） 実技等の学習支援（家庭科ミシン縫い補助 体育動きづくり補助 毛筆書写支援等） 校外学習安全見守り支援 放課後学習支援 図書館環境整備 等

4 学習支援ボランティア登録と活動の実際の流れ（予定）

- ① 学習支援ボランティア登録をする。（QRコードから入力フォームにアクセスし、下記の必要事項を入力してください。）
 - ※ 必要事項 （1）氏名（ふりがな） （2）学年 （3）コース （4）住所 （5）電話番号 （6）メールアドレス （7）登録を希望する小学校（上田小・仁王小・両校のいずれかを選択）
 - ※ 登録いただいた個人情報は、ボランティア保険の加入をはじめとする学習支援ボランティア事業に係る目的以外では使用しません。
- ② 小学校の学習支援ボランティア担当教員或いは地域コーディネーターからボランティア活動の依頼メール（活動期日・時間 活動内容 支援内容 等）が登録者に送信される。
- ③ 学習支援ボランティアの可否をメールで返信する。
- ④ 小学校で学習支援ボランティア活動をする。
- ⑤ 実施後、『学習支援ボランティア活動実施報告書』に必要事項を記入し、小学校の担当教員へ提出する。（②～⑤を繰り返す。）



※ 申込み締切日： 令和3年5月7日（金）17時厳守

※ 昨年度、申込み登録した方も、希望する場合は、改めて申込みをしてください。

【担当教員】 本山 （514研究室） 621-6637 motoyama@iwate-u.ac.jp
仁昌寺 （308研究室） 621-6686 nishozi@iwate-u.ac.jp

学習支援ボランティア活動 実施要項 【資料④】

1 態度(姿勢)

- ① 学校は子どもたちが中心の場である。教育の一端に携わることに情熱と使命感をもち、誠実・真摯な態度で学習支援ボランティア活動に臨むこと。
- ② 学習支援ボランティア活動の目的をよくわきまえ、豊かな体験を得ることができるように努めること。

2 学習支援ボランティア活動の進め方

- ① ボランティア活動の依頼メールが登録者に送信される。
◇ 活動期日・時間 ◇ 支援内容 等
- ② 学習支援ボランティアの可否(その日都合がつくかどうか)を返信する。
- ③ 小学校で学習支援ボランティア活動を実施する。
- ④ 実施後、『学習支援ボランティア活動実施報告書』(別紙)に必要事項を記入し、小学校の担当教員へ提出する。
① ~ ④を繰り返す。

3 学習支援ボランティア活動当日の具体的な動き(例)

- ◇ 持参するもの(筆記用具 『学習支援ボランティア活動実施報告書』 マスク 等)
- ◇ 服装(私服:派手でない質素な服装)
- ◇ 自転車は所定の自転車置き場へ置く。
- ◇ 職員玄関から入る→あいさつをする(「岩手大学から参りました学習支援ボランティアの○○です。よろしくお願ひします。」)
- ◇ 担任の先生等の指示に従って学習活動を支援する。
- ◇ 学習活動支援終了後、『学習支援ボランティア活動実施報告書』に必要事項を記入する。
- ◇ あいさつをし、報告書を小学校教員に提出し、退校する。(「岩手大学学習支援ボランティアの○○です。本日の学習支援を終了いたします。ありがとうございました。失礼いたします。」)

4 注意事項

- 学習活動開始時刻の15分前には出校し、あいさつ後、学習活動支援の簡単な打ち合わせを行う。
- 病気、その他の事由により出校できないとき、或いは遅れて出校するときは、事前に学校に電話連絡をすること。また、体調が悪くなったり、諸事情により早退したりしたいときにも、小学校の担当教員に申し出ること。
- 児童を校外に連れ出したり、児童の家庭を訪問したりしないこと。また、児童との連絡先の交換をしないこと。
- 毎日、朝に検温をし、記録すること。ボランティア活動直近1週間以内に一度でも体温が37.5度以上あったときには、予定日の学習支援ボランティア活動は辞退すること。

5 『学習支援ボランティア活動実施報告書』の配付について

- 事前指導の資料といっしょに添付します。大学担当教員(本山・仁昌寺)の研究室前にも準備しますので必要に応じて使用してください。

6 その他

- ボランティア保険への加入について
学習支援ボランティア登録者全員、一括してボランティア保険に加入します。手続きは、大学担当教員が行います。ボランティア活動において、けが等が発生した場合には大学担当者にご相談ください。
- 連絡先について
学習支援ボランティア活動についての問い合わせや連絡等は下記に行ってください。

- ◆ 岩手大学担当教員
仁王小学校担当 本山 敬祐 (もとやま けいすけ)
☎019-621-6637 motoyama@iwate-u.ac.jp
上田小学校担当 仁昌寺真一(にしょうじ しんいち)
☎019-621-6686 nishozi@iwate-u.ac.jp
- ◇ 仁王小学校 ☎019-623-4214 担当 主幹教諭 戸羽 正和(とば まさかず)
- ◇ 上田小学校 ☎019-623-3428 担当 教務主任 山野目 道子(やまのめ みちこ)

※ 上記の電話番号は、すべて登録し、連絡が確実につくようにお願いします。

学習支援ボランティア活動 実施報告書 【資料⑤】

小学校名

学生氏名

		報 告 内 容
1	期 日 ・ 時 間	
2	学 習 支 援 の 内 容	(学年・学級・支援の内容等)
3	感 想	(学んだこと・成果や課題)

【資料⑥】

令和3年5月27日

盛岡市立上田小学校

校長 和田 英 様

岩手大学教育学部長

宇佐美 公 生

本学部学生による 学習支援ボランティア(学生派遣)の受入れについて

新緑の候、貴殿におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、このたびは、本学部学生による、貴校への学生派遣(学習支援ボランティア)をお引き受けいただき誠にありがとうございました。心より感謝と御礼を申し上げます。

地域の学校において、教職員の動きを体感したり、子ども・保護者・地域の方々の想いを実感したりすることを通して、教員へのあこがれを抱き、学生としてのさらなる学びを深めていくことができる機会の一つにいたしたいと考えています。

何卒趣旨をご理解の上、ご支援ご協力くださいますようお願い申し上げます。

記

1 学習支援ボランティア活動期間 令和3年6月～令和4年3月

2 その他

① 学習支援ボランティア活動の進め方 【別添資料①②③④参照】

- ※ 資料① 学生の学校派遣実施計画
- 資料② 学習支援ボランティア活動年間スケジュール計画
- 資料③ 学習支援ボランティア募集ちらし
- 資料④ 学習支援ボランティア活動実施要項(学生への事前指導資料)

② 学習支援ボランティア登録者一覧【別添資料⑤参照】

③ 学習支援ボランティア活動実施報告書【別添資料⑥参照】

- ※ 学習支援ボランティア活動を行った学生が記述し、小学校の担当の先生に提出します。実施報告書は、大学担当教員が適宜、取りに伺います。

問い合わせ先

岩手大学教育学部附属教育実践・学校安全学研究開発センター
客員教授 仁昌寺 真 一(にしょうじ しんいち)

020-8550 盛岡市上田三丁目18番33号

TEL 019-621-6686(直通)

E-mail nishozi@iwate-u.ac.jp

令和3年度 学習支援ボランティア活動 実施状況(学習支援ボランティア活動実施報告書から(一部抜粋) 【資料⑦】

	期日・時間	学習支援内容	学 生 の 声(感想欄から)	学生
1	6月25日(金)8:10~9:10	朝学習計算タイムの個別指導・丸付け・アドバイス書き(6年)	手が止まっている子どもを探すのは大変でしたが、自分から手を挙げてくれた子どももいたのので、何人かにアドバイスすることができた。 <u>自分では理解していても、教えるというのは難しいことだと改めて感じた。</u>	1年
2	7月16日(金)8:10~9:10	朝学習計算タイムの個別指導・丸付け・アドバイス書き(6年)	<u>「教えてください。」と意志表示をしてくれる子どもが増えてうれしかった。</u> ただ教えるのではなく、 <u>いっしょに考えるように努めた。</u> 教えることの楽しさと難しさを感じられた。今回は6年生の個別指導であったが、 <u>発達段階における違いも学んでみたい。</u>	4年
3	9月27日(月)8:30~14:30	校外学習同行支援(1年)	<u>安全に楽しく遠足に行くことができよかった。</u> 特に難しかったのは、 <u>子どもへの声かけや見取り</u> である。1組3班の中で、時間までに秋探しをするか、動物を見に行くかでもめていた。私が中に入って話合わせたか、時間はかかったもののみんなが納得のいく形にすることができたようだった。1年生とかかわるのが初めてだったが、 <u>学年によってよりよいかかわり方を模索していくことが今後の課題</u> になると感じた。前よりも積極的にかかわることができた。今回も貴重な体験をすることができた。	4年
4	10月22日(金)8:00~9:10	朝学習計算タイムの個別指導・丸付け・アドバイス書き(6年)	計算につまづいている子どもに「何に困っているのですか。」と尋ねた。 <u>何が分からないかが分かっていることはよいこと</u> だと感じた。帯分数に直す仕組みについて、本人が気付くことができるように支援した。 <u>答えを教えるのではなく、子ども自身が、計算の仕組みに気付き、自分で修正することができるように支援していくことが大事</u> だと思った。 <u>できていること、できるようになったことをほめることも大切</u> であり、子どもの自信ややる気につながると実感した。 <u>計算のスピードを上げるためにどう支援していくかが今後の課題</u> である。	4年
5	10月29日(金)8:00~9:10	朝学習計算タイムの個別指導・丸付け・アドバイス書き(5年)	4年図形プリントに取り組んでいた子どもたち。対角線の性質で悩んでいる様子だった。「示されている特徴は何ですか。」と、本人が答えることができるように繰り返した。 <u>答えやキーワードをいってしまいそうになるが、子ども自身が考え、理解し、納得</u> できるような声かけをすることが大切であると学んだ。 <u>作図にも苦戦していたが、うまく声をかけてあげられなかった。</u> 支援する側がしっかりと理解し、適切な指導ができるようにしたい。	4年
6	11月26日(金) 8:10~10:50	朝学習計算タイムの個別指導・丸付け ミシン・アイロンがけの補助(5年)	前よりも計算のスピードが上がっていた。子どもの方から聞いてくる姿が見られ、うれしかった。初めて授業に入った。ミシンがけやアイロンがけの指導補助に入った。 <u>もし、担任として一人で指導することを想定し、どのような授業構成をしたらよいか考えるきっかけ</u> となった。丸付けをしているときに、 <u>ALTの先生と話をする機会</u> があった。4月から英語も指導することになるので、 <u>ALTの先生との協力がとても大事</u> だと思った。	4年